

随意契約結果及び契約の内容

工事の名称	天ヶ瀬ダム再開発トンネル減勢池部建設工事
工事概要	トンネル掘削・支保 120m 、 覆工コンクリート 100m 、 RC円柱支保 6本
契約担当官等の氏名並びにその所属する部局の名称及び所在地	支出負担行為担当官 近畿地方整備局長 山田 邦博 大阪府大阪府 市中央区大手前1-5-44
契約年月日	平成28年3月14日
契約業者名	大林・飛鳥特定建設工事共同企業体
契約業者の住所	大阪府大阪市北区中之島3-6-32
契約金額	1,638,360,000円(税込み)
予定価格	1,639,591,200円(税込み)
随意契約によることとした理由	<p>天ヶ瀬ダム再開発事業は、既設天ヶ瀬ダムの放流能力を増強するため、ダムサイト左岸にトンネル式放流設備を新設するものである。放流設備の減勢池部のトンネル掘削は、断層破砕帯が存在する脆弱な地山状態の確認が可能であり、切羽の自立性を高めるための断面分割が出来る先進導坑工法を採用した。また、当該工法は地耐力が不足する場合の上半アーチの基礎工の施工も可能とするものである。先進導坑による切り羽の状況確認をした結果、想定を遙かに上回る範囲に断層破砕帯が分布している事が明らかとなり、当初設計の支保工ではトンネル側壁面が保持出来なく新たな補強工を検討する必要が生じた。</p> <p>この補強工について有識者と協議を進めてきた結果、不良地山における安全性を確保するためには、RC円柱支保工による大規模な補強工の採用が必要となった。</p> <p>既に減勢池部トンネル深部に位置するシュート部は掘削が進捗しており、地下に施工中の不安定な大断面の空洞が存在する状況となっている。当該箇所は、近傍に京都府道や関電送電線鉄塔などの重要構造物が位置するなか、断層破砕帯と近接しているため、速やかに計画断面での掘削を完了し、覆工することでトンネルの安定を図る必要がある。しかし、シュート部覆工を施工するためには、断層破砕帯が存在する区間を切り下げる必要があり、そのためには、RC円柱支保工による断層破砕帯対策を早急に完成する必要がある。</p> <p>以上のように、本工事は、前工事で当初契約を行っていた上半掘削までの範囲内であり、前工事と後工事(本工事)とは一体の構造物であることと、緊急的速やかに工事を完成させる必要があることから、会計法第29条の3第4項に規定する「緊急の必要により競争に付することが出来ない場合」に該当し、国の物品役務の調達手続きを定める政令13条1項第5号の「緊急の必要により競争に付することが出来ない場合」に適合することから、本工事を上記業者と随意契約するものである。</p>
工事場所	京都府宇治市宇冶金井戸地先
工事種別	一般土木工事
工期(自)	平成28年3月15日
工期(至)	平成30年2月28日
備考	落札率 99.92%

備考

- 公表対象随意契約が単価契約である場合には、契約金額欄に契約単価を記載するとともに、備考欄に単価契約である旨及び契約単価に予定調達数量を乗じた額を記載する。
- 入札情報サービス(PPI) <http://www.i-ppi.jp/Search/Web/Koji/Keika/Search.aspx> にアクセスし、発注機関及び工事名を入力して検索することにより、契約課程に関する情報を閲覧可能である。